

# 武器で幸福になれない

## 「戦争法案」

### 今言わなければ

安保法案(戦争法案)には反対です。戦後70年間、日本は憲法のもと自由、平等、人権を大事にし、戦争の享受してきませんでした。なぜいまさらそれを変えなければいけないのか。為政者の使命は国民の安全を平和のもとに守ること。戦争することではありませぬ。「保守」の立場であっても納得できません。

福岡県みやま市長

西原 親<sup>さん</sup>



伯父が戦死して

終戦の時、私は小学校1年生でした。私を一番かわいがってくれ

た伯父は海軍で戦死し、帰ってきた箱には誰のものとも知れない髪の毛が入っていました。祖母がそれです。伯父はいつまでも忘れられませんが、自宅の畑から見た大牟田市(福岡県)の空襲では悲惨な体験を聞きました。

「戦争ができない国」から、「戦争ができる国」に変わろうとしていること

に大きな衝撃を受けています。たった1発の原子爆弾で広島では約14万人、長崎では約7万人の方がその年のう

た伯父は海軍で戦死し、帰ってきた箱には誰のものとも知れない髪の毛が入っていました。祖母がそれです。伯父はいつまでも忘れられませんが、自宅の畑から見た大牟田市(福岡県)の空襲では悲惨な体験を聞きました。

にしはら・ちかし  
1938年生まれ。九州大学経済学部卒業。福岡県議会議員(5期)、県議会副議長を歴任。2007年みやま市長に当選、現在3期目。

ちに亡くなりました。いま戦争をすればあの戦争の何十倍の被害が出る、ボタンひとつで人類を滅ぼす兵器が使われる、どうしてそこを考えないのか。

徹底した外交で

最低限の防壁として自衛隊や基地は必要です。ただ、戦争をして

国を守る時代は早く終わらせなければ。市民には武力で相手をやっつけようなんて人はいません。経済界も一生懸命交流して結びつきを強めようとしている。素晴らしい科学の進歩、社会の発展をみてどうして政治家だけが武力に頼る昔のやり方のままなのか。日本は「どこにも攻め込まない平和国家だ」と

堂々と宣言し、徹底した外交で互いの国を守るべきです。

中国の海洋進出の問題にしても、不安だからこそ余計に外交しなければ。互いに武力で解決しようとするれば本当に戦争になります。東アジア、東南アジアの国々で何度でも話し合い、アメリカも巻き込んで中国に申し入れをする。武器を使って幸福になったためしはないのですから。

法案は、多くの学者や海外で活躍するNPO代表、古賀誠元幹事長など自民党の重鎮の方々まで反対しています。国民的な運動で政府を動かす、廃案に追い込んでほしい。

聞き手・写真

田中正一郎